

令和3年度厚生労働科学研究費補助金障害者政策総合研究事業（精神障害分野）  
「ギャンブル等依存症の治療・家族支援の推進のための研究」  
分担研究報告書

治療効果判定ツールの再検査信頼性と結果フィードバックの効果に関する研究

研究分担者 神村 栄一  
新潟大学人文社会科学系・教授

研究要旨：

ギャンブル障害の症状を測定する2つの尺度ツール（GSAS、GRCS）について、再検査信頼性の検討が行われ、ともに十分な再検査信頼性を持つことが確認された（研究1）。あわせて、ギャンブル障害の症状およびこの障害における治療ギャップの改善に対する、Personalized Normative Feedback (PNF) の効果の検討を行った結果、主観指標に対して有効性と行動指標における限界が確認された（研究2）。さらに、ギャンブラーのサブタイプを特定するための調査を実施し、6タイプが特定された（研究3）。

**A. 研究目的**

本研究班では、ギャンブル障害の評価と治療に関する3つの研究（研究1、2、3）を行う。研究1では、ギャンブル障害の症状の指標である Gambling Symptoms Assessment Scale (GSAS)、及び Gambling Related Cognitions Scale (GRCS) の再検査信頼性を確認する。研究2では、PNF の、ギャンブル障害の症状、および治療ギャップの改善に対する効果を検討する。研究3では、ギャンブル障害における治療ギャップの背景を明らかにするため、日常的にギャンブルを行う2,000名を対象とした調査を行い、ギャンブラーのサブタイプを明らかにする。以上3点が、研究の目的とされた。

**B. 研究方法**

研究1、2、3における研究参加者はすべて、インターネット上で募集された。研究1、2の調査対象は、ギャンブル障害が疑われる者（ギャンブル障害者のスクリーニング指標である Pathological Gambling Severity Index が3点以上の者）であった。研究3の調査対象は、日常的にギャンブルを行う2,000名であった。研究期間は2020年11月～2022年2月であった。研究倫理審査は、研究1および2については岡山県精神科医療センター、研究3については、川崎医療福祉大学にて、それぞれ承認を得た上で実施された。

**C. 研究結果**

研究1の結果、2つの尺度はそれぞれ、十分な再検査信頼性を有することが明

らかとなった (GSAS : ICC = 0.79 (95%CI = .68 - .86)、GRCS : ICC = 0.89 (95%CI = .85 - .93))。研究2の結果、GSAS、及びGRCSといった主観的な指標において、PNFは軽度ながら改善の効果を持つことが示された。これはPNFについての先行研究とも一致する。しかしながら、ギャンブル日数やギャンブルに費やされた金額、及び援助・支援希求行動に対する効果は認められなかった。研究3の結果、2,000名のギャンブラーのデータに対して、潜在クラス分析を行い、non-problem、low-risk、engaged、at-risk & relationships problem、at-risk & occupational problem、problemの6つのサブタイプがあることが明らかとなった。

#### D. 考察

ギャンブル障害に関連する指標であるGSASやGRCSについては今後、測定誤差や検出可能な変化の値の算出が必要となる。ギャンブル障害におけるより効果的なPNFの開発が期待される。ギャンブルに関して深刻化しておらず、他の精神障害の合併もないギャンブラーについて、サブタイプの特徴に基づいた予防、治療ギャップ解消に関する知見の集積が期待される。

#### E. 結論

ギャンブル障害に関連する2つの指標の再検査信頼性が認められ、PNFの主観指標に対する有効性が確認された。

#### F. 健康危険情報

特になし。

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

英文 なし

邦文 なし

##### 2. 学会発表

なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし